

桂川だより

27年度 9月
前期学校評価特別号
京都市立桂川小学校
校長 奥田 直孝



前期学校評価アンケート結果より

日頃は、本校の学校教育にご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。6月に実施いたしました学校評価アンケートの結果をお知らせいたします。この結果・考察を生かし、今後の教育活動をより充実したものにしていきたいと考えています。今後ともご協力、よろしくお願ひいたします。

アンケート結果集計表

質問ごとの回答の平均値を最高7点のスコアで表示した表です。保護者・児童・教職員の3者で比較してみました。太数字は最高スコア、網掛は低い項目です。保護者のスコアが高かった項目から順に載せています。

~行きたくて行きたくてたまらなくなる学校=桂川校をめざして~

学校教育目標 「夢をもち 自ら考え 正しく判断し すすんで行動できる子どもの育成」

アンケート結果の概要

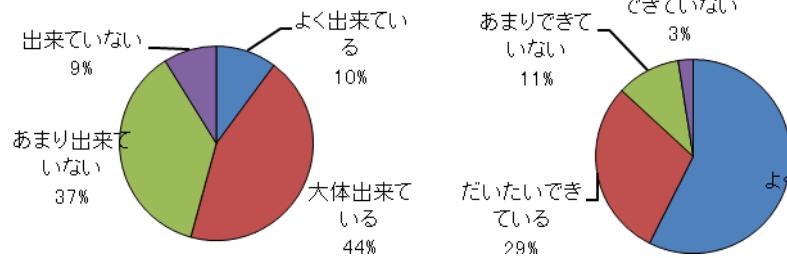
- 保護者・児童・教職員の3者を比較すると、児童の自己評価が全般を通じて高いです。このことは、児童の自己肯定感が高いことの表れと考えられ、喜ばしいことではあります、周囲の大(保護者・教職員)人が、子どもの弱点や問題点を見逃すことなく正しく支援していく必要があると考えられます。
- 3者ともに一番評価の高かったのは、「1 楽しい学校」の項目であり、児童と教職員は同じスコアで「18 生活科・理科の学習が楽しい」も最高評価でした。このことは、学校教育目標の「行きたくて行きたくてたまらなくなる学校」の実現に近づいている証であり大変うれしい結果ではあります。また、本校が取り組んでいる研究教科についての項目が高い評価であることは、教職員が心を一つに取り組んでいる結果の表れであり、12月に控えた全国理科教育研究大会に向けてさらに取組を進めていきたいと考えます。
- 教職員より保護者の方がスコアの低かった項目（網掛）は、「14・15・16 自分から～」の項目であり、今年度教職員の取組の重点として挙げている内容です。今後、ていねいに取り組みを進めていく必要があると考えられます。また、「17 読書の習慣」の項目は、保護者・児童ともに最低のスコアでした。裏面でさらに詳しく分析します。
- 教職員自身は、子どもと話をする時間の確保や地域行事等への積極的な参加を課題と考えています。

	保護者質問項目	保護者	児童	教職員	教職員質問項目
1	子どもは、楽しく学校に通っている。	6	6.2	5.4	全ての子どもが、楽しく学校生活を送れるよう環境づくりをしている。
2	学校のホームページや学校だより、学年・学級だよりなどで学校の様子がわかる。	5.4		4.8	学校のホームページや学校だより、学年・学級だよりなどで学校の様子がわかるよう工夫している。
3	子どもには思いやりの心が育っている。	5.3	5.5	4.8	互いに思いやり、支え合う学級づくりができている。
4	子どもと、学校のことなどを話している。	5.3	6		
5	せんせいといろいろなことをはなせる。(児童)		5.4	3.9	子どもと、色々な話をする時間の確保ができるいる。
6	子どもには、早寝・早起き・朝ごはんなどの基本的な生活習慣が身についている。	5.3	5.4	4.3	子どもに、早寝・早起き・朝ごはんなどの基本的な生活習慣が身につくよう働きかけている。
7	子どもは、物事の良し悪しを自分で判断して行動できる。	5.2	5.7	4.8	子どもが、自分で考え、正しく判断し、それを行動に表すことができるよう支援を工夫している。
8	子どものことについて担任や学校に気軽に相談できる。	5.2		4.5	子どものことについて、学校と家庭が情報共有している。
9	学校は、保護者や地域の方々と交流を深め、開かれた教育活動を進めている。	5.2		3.6	保護者や地域の方々と交流を深め、地域行事に参加している。
10	学校の教育方針や考えが保護者に伝わっている。	5.1		4.5	学校の教育方針や考えを保護者に伝えている。
11	子どもは、きまりや約束を守って生活している。	5	5.9	5	子どもが、きまりや約束を守って生活できるよう、桂川スタンダードの実践を進めている。
12	子どもには、基礎的な学力が身についている。	4.9	5.8	4.6	わかる授業の工夫と実践により、子どもに、基礎的な学力が身についている。
13	子どもは、自分の思いや考えを進んで話したり書いたりしている。	4.6	5.4	4.6	子どもは、自分の思いや考えを進んで話したり書いたりしている。
14	子どもは、自分からあいさつしている。	4.4	5.8	4.5	子どもが、自分からあいさつできるよう取組を工夫している。
15	子どもは、自分から進んで学習している。	4.3	5.3	4.8	学習展開の工夫により、子どもは主体的に学習に取り組んでいる。
16	子どもには、進んで家庭学習に取り組む習慣が身についている。	4.1	5.8	4.3	家庭学習の工夫により、子どもには、進んで家庭学習に取り組む習慣が身についている。
17	子どもには、読書の習慣が身についている。	3.9	5	4.4	読書指導により、子どもには、読書の習慣が身についている。
18	せいいかつかやりかのがくしゅうはたのしい。(児童)		6.2	5.4	協同的な学びによる学習活動の充実により、子どもは、生活科や理科の学習を楽しんでいる。

自学自習の力を！

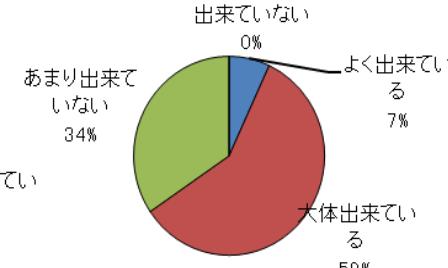
保護者

子どもには、進んで家庭学習に取り組む習慣が身についている。



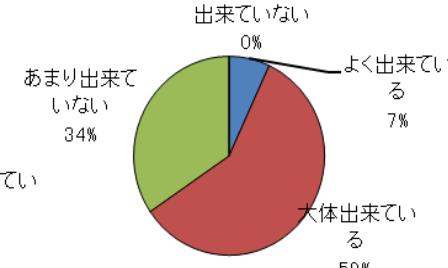
児童

進んで家庭学習に取り組む習慣が身についている。



教職員

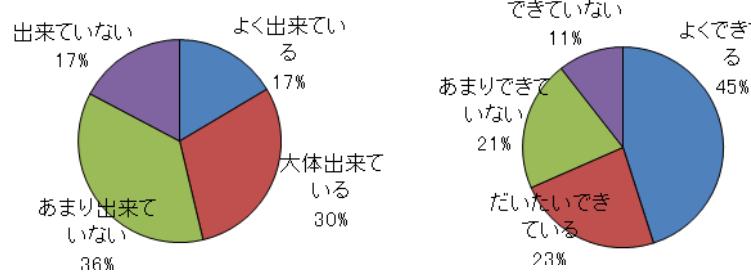
進んで家庭学習に取り組む習慣が身についている。



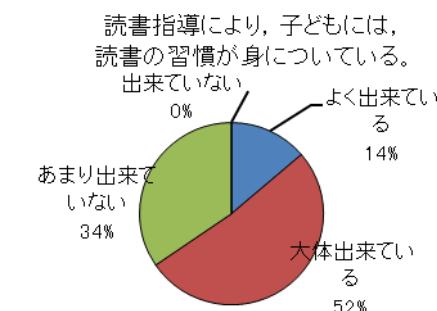
保護者の評価が特に低いですが、これは、家庭での子どもたちの学習状況に関心をもっていただいていることの裏返しではないかと考えます。自分で課題を見つけ、自ら学習に取り組む自学自習の力を学年に対応して身に付けていくけるよう、学校では支援していきたいと考えています。

読書習慣の定着を！

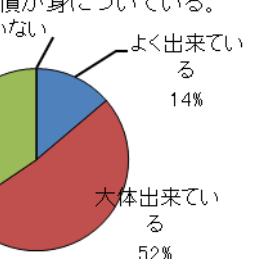
子どもには、読書の習慣が身についている。



まいにち ほんを よんでいる。



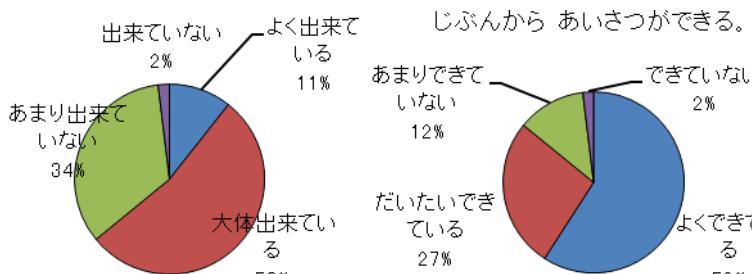
読書指導により、子どもには、読書の習慣が身についている。



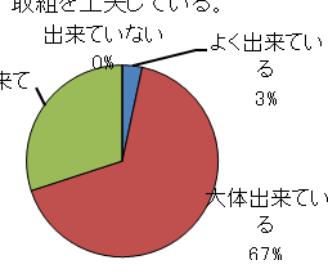
「出来ていない」と評価した教職員は0でした。しかし、保護者・児童の評価から見ると、実際の読書習慣の定着度は低いようです。学年ごとに見ると、高学年の評価が低いです。中学年での読書へのアプローチが鍵かもしれません。意識して取り組みたいと思います。

あいさつ名人に！

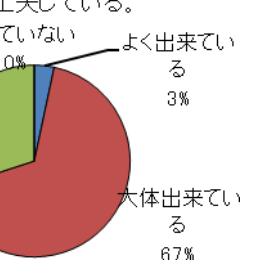
子どもは、自分からあいさつしている。



じぶんから あいさつができる。



子どもが、自分からあいさつできるよう取組を工夫している。



毎年の課題で、子どもたちも意識していると考えられます。あいさつの質を向上させたいと学校では考えています。受け取る方に気持ちのよいあいさつをめざし、「いつでも どこでも だれにでも」①聞こえる声で②相手を見て③自分から④笑顔で、をめあてとして取組を工夫していきます。

自由記述より～ご意見いただいたことをまとめて掲載しています～

- ・学校生活の中で、毎日不安に思うことはなく安心して通わせることができます。
- ・親子読書の取組は、とても効果的。今の時代必要なことだと思う。
- ・最近のニュースで子どもたちの学力と図書室の利用率が比例するというような話を目にしました。学校の図書室も、子どもたちが行きたくて行きたくない！図書館となるよう、使いやすく充実するとよいと思います。保護者も協力できればと思います。
- ・忙しく時間がかかるので親子読書はやめてほしい。宿題という形でなく、子どもと過ごす時間がほしい。
- ・教科によって先生が変わる取組を4年生も導入されたのは、子どもにも刺激になりよかったです。
- ・先生が、「呼び捨てはやめましょう。」と子どもたちに伝えてくださっているのはよいと思います。名前を呼び捨てにした後に続く言葉は、あまりよい言葉づかいではないですし、上下関係が生まれる場合もあります。
- ・まだまだ校外で顔見知りの子どもに会ってあいさつしても返ってこないことがあります。
- ・うちの子も含め、あいさつがあまりできていないように感じます。旗持ちをしていて、あまり返事がないのでさみしく思います。なぜあいさつしないのか、できないのか、その理由について子どもたちと一緒に考えていくべきだと思います。
- ・今までどこの体育館よりも床が真っ白で滑りやすいと思っていました。ワックスをかけた次の日でも床が真っ白で靴跡が付いているのがとてもショックでした。新しい体育館は、体育館シューズを使用するか、上靴を拭いて入るようにしてほしい。
- ・新しい体育館は2足制にしてほしい。
- ・学校のホームページで学校のこと、子どもの様子がよくわかり安心できる。学校を感じられる。
- ・休み時間に先生も一緒に遊んでくださることがあるそうでよいことだなと思います。
- ・テレビでも先生の忙しさが問題として取り上げられているので、先生がもっと体力的にも余裕ができるといいと思います。
- ・子どもがもっと楽しい場所やと思える学校であってほしい。やんちゃが多すぎるよう思っています。
- ・保護者の付き添いなしで校区外に遊びに行く子ども、またそれを容認している保護者が多すぎます。

いただいたご意見を、これから学校教育に生かしていきたいと考えています。

- ・少数ではありますが、「学校があまり楽しくない」と感じている児童がいる現状です。一人一人の子どもに目を向け、一人一人の子どもを大切にした教育を心がけていきたいです。
- ・新しい体育館完成後の体育館シューズについては、現在、前向きに検討中です。
- ・保護者の皆様、地域の皆様には、今後ともご協力よろしくお願ひいたします。